

# 国交省九州地整職員へ出前授業を実施 (in：九州技術事務所研修所)



建設産業専門団体九州地区連合会  
令和6年12月2日（月）

講習会を開催するきっかけは R4.7.21 九州地方整備局長との意見交換会  
 藤巻局長：どうも専門工事業の特有の課題がわかっていない

# 「専門工事業の仕事は知らない」を無くす

## 専門工事業講習会 時間割

受講生31名(男性21名、女性10名)

令和6年12月2日(月)  
 場所:九州技術事務所

時間	13:00	14:00	15:00	16:00
月日				
12月2日 (月)	ガイダンス	建設業の現状と課題 (専門工事業について) 《講義》 (20分) 建政部 課長補佐	専門工事業の現状と課題 《講義》 (40分) 九州鉄筋工事業団体連合会会長 宮村 博良 氏	移動
	05	25	05 15	15 20 50
			専門工事業の職種体験 (解体、鳶、型枠、鉄筋予定) ※4班×30分で順次体験  (120分) 九州建専連	移動 意見交換 着替え解散

## ○業界を健全な産業に導く取組を果敢に進めていく

○講義：建設専門工事業の現状と課題

○講師：株式会社宮村鉄筋工業会長 宮村博良  
(九州鉄筋工事業団体連合会 会長)

氏

経営者  
として

- ・社会人としてのスタートは、ホテルのボーイで賃金3万円と安く、炭鉱で働いている友達は賃金が高かったので、申込みでしたが、家族に猛反対されたこともあり、鉄筋業にアルバイトとして入ったのが始まりで一人親方として事業を興し、有限会社から株式会社へと従業員を増やして順調に経営してきた。
- ・その後、バブルが弾けて、そしてリーマンショック時には60名ほど従業員を抱え、社会保険の負担が苦しくて、従業員と相談の結果、給与を下げないで楽な方に逃げてしまった。

現状と  
課題

- ・現在社員数90名ほどだが、社員3名の社会保険に入っていない企業と同等に競争をしなければならない。仕事がほしい企業は、どうしてもダンピング受注をしている。
- ・我々業界の一番ダメなところで、結局そのあおりで単価も下がり、人手も3割ほど減って、現在も元に戻っていない。
- ・未だに鉄筋業界の半数の企業は社員だけを社会保険に入れ、職人は未加入状態であり、かつ、県知事登録もしていない企業が公共工事をしているのが実態。

将来に  
向かって

- ・建設専門工事業の団体活動を通じて、安値受注ができない法律上の規制を進めるべく、その取組を行政と連携していく。
- ・建設Gメンは現場で下請けの施工体制等の状態を厳しい眼で確認し、法律を守らない企業は厳しく対応してほしい。
- ・ダメなものはダメという取組を進めていかなければ、担い手を確保できずに、災害時の重要な役割を果たすことができないといった危機感を持っている。

宮村会長の言葉が  
響きました  
(受講生の声)

・ダンピング受注し、ピンハネが成立する産業であってはならない。



# ○専門工事業の職種体験

・4 班集体  
・30分単位

とび・土工事業  
協力企業 (株)スギヤマ  
中村工業(株)



型枠大工工事業  
協力企業 (株)伊佐工務店



鉄筋工事業  
協力企業 (福岡県鉄筋事業協同組合)



解体工事業  
協力企業 (福岡県解体工事業協会)



## 指導者と意見交換を行いました



### Q 女性の割合の現状

- ・ 型枠では昔は、親方や職人の奥さん等の親族が入っていたが、今はないのが現状です。
- ・ 女性を拒否している訳ではなく、ウエルカムだがない。
- ・ 解体では九州にはいないが、全国的にはオペレーターの大会にも参加していた。
- ・ 現場が8時から始まると結婚している方は6時半には家を出ないといけないので、子供ができるとなかなか続けられない。女性が活躍するためには業界が始業時間から変えていかなければならない。

### Q 担い手確保に向けた取組状況

- ・ 外国人に頼らざるを得ない状況ではあるが、新たな試みとして学生に近い立場の方を専属で招き入れて学校回りをしてもらっている。
- ・ すぐに現場には送り出さず暑い夏を越して9月まで研修を実施し、社員を一人付けて楽しさをまず覚えてもらっている。
- ・ 重機オペレーターの腕がいいと若い人だけでなく、年配の人も転職をしていく実態があり、現在いる人の確保も困難な状況にある。
- ・ 重機オペレーターもすぐに乗れる訳ではなく、手作業や水まきという下積みがあるが、その間に辞めるのが実態だ。
- ・ 特定技能者を2号を取らせるべく育てている。
- ・ 4週8休にし、賃金も他産業と同等の土俵に上げ、日本人は6か月、外国人は2か月の研修で育てている。

## よい経験となりました！



### 体験後の声

- ・ 発注者の立場でしか物を見たことがなかったので、実作業の体験をリアルにすることができてとても勉強になった。
- ・ 建設業の現状と課題を現場の方から聞けてためになった。
- ・ 簡単に見える作業も難しく、職人の大変さがわかった。
- ・ 鉄筋の組み方等のチェックポイントも教えて頂いて良かった。

# 整備局職員が専門工事体験 九州建専連協力の講習会



九州地方整備局は2日、職員向けの専門工事業講習会Ⅱ写真Ⅱを、久留米市の九州技術事務所

で開いた。建設産業専門団体九州地区連合会(杉山秀彦会長)が協力し、構成団体14団体から4団

体15社が参加。これから現場に出ていくことになる若手職員に、専門工事の実技指導などを行った。

講習会は九州地整職員が専門工事の実態や仕事内容を学ぶことを目的として年に1度実施しているもので、今回が3回目となる。九州地整からは本局、事務所から20代後半～30代を中心とする若手職員31人が参加。九州建専連からはとび(足場)2社、型枠1社、鉄筋7社、解体4社、メーカー1社の15社が協力し

た。

講習会は前半を座学、後半を実技で構成している。座学では九州地整備政部から建設業(専門工事業)の課題等について講義があった。また、九州鉄筋工事業団体連合会の宮村博良会長が、自身の経歴や専門工事の現状などを説明。将来の先細りが予測される中、単価を下げて職人の腕を安く売ることは厳禁だとした上で、国にも厳しい視点を持って業界を見てほしいと訴えた。

所敷地内にある野外研修施設で足場の組み立てや重機の操縦、鉄筋、型枠を実習。職員は慣れない手つきながらも、担当者からの指導を受けて初めての作業に取り組んだ。とびを体験した参加者の一人に話を聞くと、「職人は足場組みを素早くするが、自分でやってみると当たり前だがうまくできなかつた。職人が毎日経験や練習を積み、工程に収まるようにしているからこそ、工事がスムーズに進むのだと実感した」と述べた。

後半は、九州技術事務

## 職種体験通して 専門知識深める

整備局、職員  
対象に講習会

九州地方整備局は2日、福岡県久留米市の九州技術事務



所で、同局職員を対象にした専門工事業講習会を開いた。建設産業専門団体九州地区連合会（杉山秀彦会長）の協力の下、参加した職員31人が職種体験などを通して専門工事業の知識を深めた。

同講習会は、専門工事業の理解促進を目的とした同局独自の取り組み。3回目となる今年、20、30代の監督職員を中心に実施した。

冒頭、あいさつした同局建設部の伊東裕倫建設産業調整官は「専門工事業者が各分野で高い技術力を発揮するからこそ、しっかりとした品質の目的物が完成する。体験を通して技術を学び、今後の業務に生かしてほしい」と呼び掛けた。

講習会では、同局が建設業

の現状と課題について説明した後、九州鉄筋工事業団体連合会の宮村博良会長（宮村鉄筋工業）が専門工事業の現状と課題を説明した。

宮村会長は「特に安値受注が課題になっている」と述べ、「給与を上げて担い手を確保するためにも、技術を安く売り続けてはならない。業界全体で単価を上げる取り組みが必要だ」と強調した。

その後、鉄筋、とび、解体、型枠の4工種について、各専門工事業の職人の指導の下、実際に体験した。

体験した職員らは「現場の工程のイメージができ、円滑な検査や指示につながる」「工程にはまるスムーズな作業は当たり前ものではなく、職人の力によるものだと実感した」などと感想を述べた。



## 九州整備局職員が 足場組み立て体験

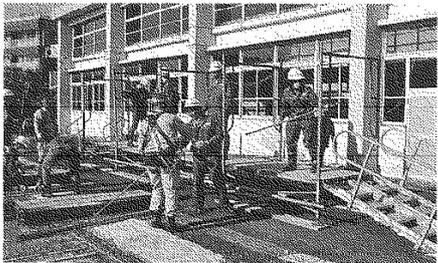
九州建専連協力で  
専門工事業講習会

九州地方整備局は2日、建設産業専門団体九州地区連合会（九州建専連）の協力の下、局内職員を対象とした専門工事業講習会を福岡県久留米市の九州技術事務所で開催した。本局や出先事務所で勤務する31人が参加し、解体、とび、型枠、鉄筋の4職種の作業を実際に体験しながら、専門工事

業の役割について学んだ。冒頭あいさつで建設部の伊東裕倫建設産業調整官は「各専門工事業に高い技術力を発揮してもらっているからこそしっかりとした品質の目的物が完成するということを、体験を通じて理解してもらいたい」と述べた。

作業体験は参加者が4グループに分かれて実施。九州建専連の会員企業の職人が講師となり、解体工で使う重機操作のほか、とび工の足場、型枠、鉄筋の組み立て作業を1職種につき、約30分かけて実践した。

武雄河川事務所の辻丸祥子さんは「簡単にやっていたように見えて作業一つ一つが難しかった。現場ではさらに『早く、丁寧に、正確に』が求められる」と職人の技術に感心した様子だった。



とびの足場組み立てを体験する職員

講習会では九州建専連を代表し、九州鉄筋工事業団体連合会の宮村博良会長が「建設専門工事業の現状と課題」をテーマに講義。人材不足などの課題に触れ「大きな災害があったときに地域の復旧に当たるのがわれわれ。人材不足は災害時の復興の早さに直結する」と危機感を述べた。

講習会の最後には参加者と九州建専連による意見交換も行った。

九州整備局は2022年度に職員向け専門工事業講習会を実施しており、今回で3回目の開催となった。